

平成二十四年度「全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会」

奨励賞

日本丸と水の大切さ

松前町立岡田中学校 一年 渡邊 りお

堂々たる風格の日本丸。それを一目見ようと南予へドライブに出かけた。

「こんにちは！」

訓練生のハキハキした声がひびく。は気のある様子に感心すると同時に、いくつかの疑問が浮かんできた。気になった私は、航海士さんに質問してみた。

「航海する上で最も大切なことは何ですか。」

「見はりや水です。」

「日本丸でどんな所へ行くんですか？」

「ハワイなどの外国です。」

「何ヶ月も航海する上で大量に必要なとなる水はどうしてるんですか？」

「船にあるタンクに水を入れていて、少なくなると寄港して水をほじゆうしています。」

「予定通りに寄港したり、目的地に着かないこともあるのに……。限られた水で過ごすなんて大変ですよ。もちろんむだ使いなんて出来ないし毎日が戦いですね。」

航海士さんは笑顔で答えてくれた。しかし、その内容は理解しがたいものだった。私が住んでいる松前町は地下水がとても豊富なため、水はかぎられたもの「なんて一度も感じたことはない。そのため、公共の場ではられている「節水」のシールもそこまで大切なものだとは意識したことはない。シャワーでお湯を出しっぱなし。手を洗う時も、うがいをする時も……。」

船上の生活で食べ物が無くなったら魚などで代用できる。しかし、飲料水は海水でも雨水でも代用できない。だから水をむだ使した人はヤシの実を使った甲板そうじの罰がかせられるそうさ。一日一日が水との戦い。さらに予定通り水がもらえる保証はない。いや、水が飲めない日もあるかも……。そんな体験をしてきた人は私の何倍も水のありがたさや貴重さを知っているにちがいない。

航海士さんとの会話で知った事実を通し改めて水の大切さを感じることができた。水がなかったら地球上のたくさんの生き物の命をつなぎとめてはられない。生きていくことはできないのだ。命の源である水。いつてきでも貴重な水を無だにはできないと強く強く感じられた。

そんな水のありがたさについて家族で話していると、母と祖母がこんな話をしてくれた。私が生まれる数年前にすこいかつ水状態の時があったそうさ。水を使える時間が限られているため、トイレは流せずお風呂にも入れない。調理が出来ないため、ほぼ給食はパンと牛乳のみだったそうさ。生活のあらゆる所が不便になり、とても大変だったそうさ。もう今では想像できないくらいに！私は話を聞きながら、思わず息をのんでしまった。

偶ぜん行くことになった日本丸からこんなに多くのことを知るなんて思ってもみなかった。「水のありがたさ」「水の貴重さ」「水の大切さ」「こんなことを知り、今までむだ使いをしてきた水を取り返すぐらいの気持ちで節水に取り組まねばと強く感じた。例えば、シャワーの一回十秒ルールや顔を洗う水は洗面器にくむ。妹や弟にも私が感じたことを話し、意識しあって節水を心がけていきたい。まず、今から「水を大切に」のポスターを蛇口の横にはろう。そして月に何回か家族で水の使い方について見直し、話し合おう。

「いつてきの水も大切に」をモットーにこの家を船だと思い、限られた貴重な水を大切に使う「日本丸家族」にしていきたい。